

HSK

会報「石川守る会」

NO.102

石川県重症心身障害児（者）を守る会

全国重症心身障害児（者）を守る会

石川県支部 会長 永井 一郎

地球が沸騰したとまで言われた猛暑が続いた今年の夏でした。

会員の皆様方、お子様達は体調をくずしたりなさいませんでしたか。

また、コロナ感染も5月から5類相当になったとは言え、感染が拡大し始めているようで油断はできません。入所の皆さんの面会状況は少し緩くなったとはいえ親子の絆を取り戻すまでには至っていません。

在宅の皆さんも通所施設での行事や日中活動が縮小されたりとか、通所に制限があったりとか楽しみが少なくなってしまいました。

大きな自然災害も世界各地で頻発していて、本当に生きにくい社会になりましたが、特に重い障害のある子ども達にとっては命に関わる緊急事態です。

「みんなの命を守るために必要なことは何なのか？」

「どんな準備をしておけばいいのか」

「守る会」としても検討していく必要に迫られていると思います。



第60回

重症心身障害児(者)を守る全国大会が開催されました

9月9日(土)～10日(日)広島市で開催された上記の大会に石川からは4名で参加しました。4年ぶりの開催と言うことで全国からも730余名の参加がありました。

1日目 行政説明 「子ども家庭庁支援局 障害支援課」課長栗原氏

本年4月1日施行された子ども家庭庁では全ての子どもがその権利の擁護が図られ、将来に渡って幸福な生活を送ることの出来る社会の実現を目指して、子ども施策を総合的に推進することを目的に掲げています。

子ども家庭庁支援課の中に障害児支援課が設置され、児童発達支援センター、放課後等ディサービス、障害児通所支援、医療的ケア児支援、強度行動障害支援・・・等について検討会が開かれているとのことでした。

重症児・者の支援については厚生労働省と子ども家庭庁が関わることとなりましたが、切れ目のない一貫した支援に取り組んで頂きたいと思います。

分科会 ①国立施設部会 ②重症児施設部会 ③在宅部会 ④母親部会

各部会ではそれぞれパネリストのみなさんからの報告があり、質疑や討論がされました。どの部会でもコロナ禍での感染対策のために面会制限・外出禁止・活動縮小がされる中で子ども達の健康と豊かな生活を守っていくために、様々な工夫や努力がなされたとの報告がありました。

例えばコロナ禍での日中活動においても

オンライン外出・・・職員が店に行き利用者の希望に沿うような品物を選んでタブレットで伝え代わりに購入してくる。

アート活動・・・専門家による指導をリモートで実施し、利用者がアート作品を制作する。

2日目 基調講演 「生きるとは何か」「人生の幸せとは何か」

ヒサ坊に生きた北浦雅子の生涯

北浦雅子さんの半生を綴った「重い障がい児に導かれて」の著者福田雅文先生による北浦前会長の子どもの幸せを願うひたむきな生き方について話されました。

およそ60年前「社会の役に立たない人間に国のお金は使えません」と言われ、「生きているこの命を守って下さい。」「最も弱いものを切り捨てれば、その次に弱いものが切り捨てられ、結局は社会全体の幸せにはつながらない」と訴えて重症児者運動を進めてこられました。自身の体調が悪く寝たきりになられてからも「厚労省へ行かなければ」と起き上がろうとされたと言うお話に思いの強さを感じました。

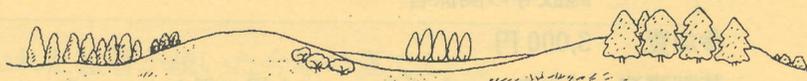
式典

多くの来賓の方が臨席されており、国、県、市などからの祝辞もありました。また会員の意見発表に続き、次期開催の東京の支部長さんからの挨拶で閉会しました。

全国大会に参加して

松田 郁夫

今年6月に賛助会員として加入させて頂きました。早速本部から(両親の集い)と全国大会の案内が送られて来ましたので、会のことを知る貴重な機会だと思い大会に参加させて頂きました。会場のホテルには多くの会員が集い皆さんの熱気が伝わってきました。北浦雅子前会長のご逝去後とあって会の歴史に関するお話を聞く場面が多く、少し知ることが出来ました。在宅部会に出席し、創設されたことも家庭庁をはじめとする行政や、関連団体の代表の方のお話、懇親会でお話できた多くの保護者のみなさんから子ども達に寄せる熱い想いが十分に伝わってくる2日間でした。共に活動させて頂きたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



全国重症心身障害児(者)を守る会

第33回東海・北陸ブロック大会 開催要項(案)

○テーマ ～ 豊かに生きる、そんな居場所を考えたい ～

2020年2月に始まった新型コロナウイルスによる感染症の流行は2023年5月に5類相当の感染症扱いとなったことで、新たなステージに入りました。けれども、重症児者に関わる私たちはまだ慎重にならざるを得ません。施設や病院、さらに在宅でも重症児者の生活を支えてくださる方々は、その笑顔と生活を守るため、たゆまぬ努力を続けていただいています。

自然災害ともいえるコロナ禍を経験したことで、感染症対策と社会生活の維持をどう両立させて行くのか深く考える機会を得ました。そして地震や風水害など毎年のように起こる災害にも備えなければなりません。それぞれの立場でこれからの重症児者の生活を豊かに保つために、また重症児者の自己実現が叶う居場所をつくるため、どのような方法があるかを平時のいま考えたいと思います。

2021年9月に施行された「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」(医療的ケア児支援法)ではその家族にも支援をするということが明確にされました。重症児者のライフステージが変わっても、親の高齢化による家族の支援が失われることがあっても、重症児者を家族に代わり社会が支えるにはどうしたらよいのか、様々な立場の方からの助言をいただき一緒に考えたいと思います。

主 催 全国重症心身障害児(者)を守る会 東海・北陸ブロック
静岡県重症心身障害児(者)を守る会

後 援 浜松市 (予定) 静岡県 静岡県社会福祉協議会 浜松市社会福祉協議会

- 日時 2023年11月18日(土)13:30 ~ 19日(日)12:00
会場 ホテルクラウンパレス浜松 (JR浜松駅下車 徒歩3分)
〒430-8511 静岡県浜松市中区板屋町110-17
TEL:053-452-5111 FAX:053-452-7700
- 参加者 東海北陸6県の重症児(者)の親を中心に行政、医療、福祉、教育、施設等の関係者
- 参加費 3,000円
- 基調講演 「未来につなげる コロナ禍で得たもの、失ったもの」
講師 水口 浩一氏 社会福祉法人みなと舎 ライフゆう 施設長/医師
同 生活介護事業所 ライフゆうラボ 管理者

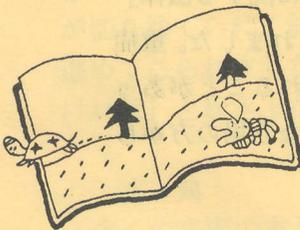
昨年の石川でのブロック大会には静岡県支部から22名の皆さんに参加頂きました。少し遠いのですが、今年の静岡大会へのみなさんのご参加をお待ちしています。

旅費等については支部から補助したいと思います。

参加を希望される方は紺井さんまで連絡して下さい。

TEL・FAX 076-288-5413

支部締め切りは10月3日です。



編集人 石川県重症心身障害児(者)を守る会
連絡先 920-1154 石川県金沢市太陽が丘3-19
TEL076-221-6822
会長 永井 一郎
発行人 北陸障害者定期刊行物協会
富山市今泉312番地
定価 30円